

現地の職人らと話し合いながら建設を進める杉本さん(右)
＝スーダン・ハルツーム大、杉本工務店提供



北アフリカ・スーダンの首都にあるハルツーム大に京都市南区の工務店がNPO法人と連携して日本文化の発信拠点「ジャパンセンター」を建てる。畳や床の間を設けた和風建築で、清水寺(東山区)の森清範貫主が揮毫した掛け軸を飾る。日本語教室を開き、日本を紹介する書籍を貸し出し、交流の場として活用する。今夏には邦楽コンサートも催す。5月中の開所を目指している。

スーダンに 「和」を広がれ

京の工務店 日本文化発信の拠点建設



ジャパンセンター「無東西」の完成予定図。
清水寺の森清範貫主揮毫の掛け軸を飾る

内乱に苦しむスーダンの現状を憂い、ジャパンセンターの名前は、立ち位置にとられないことを意味する「無東西」とした。それぞれの考え方や国境を越えて相互に理解し合おうという願いを込めている。杉本さんは「敵も味方もない、何も境界線はないんだという思いを込めた。日本とスーダンのつながりを空間から感じ取ってほしい」と話している。

同法人は施設に置く書籍や、9月に予定する文化交流ツアーの参加者を募っている。詳細は専用ホームページで。ロシナンテス ☎093(9222) 6470。
(森大樹)

「敵も味方もない」

杉本工務店の杉本慎治さん(50)。スーダンで貧困支援活動を行うNPO法人ロシナンテス(事務局・北九州市)が、医療分野などで学術提携するハルツーム大との関係を深めようと、ジャパンセンターの設置を企画。杉本さんは、ロシナンテスの理事長川原尚行さん(48)北九州市の講演会を京都で開いたのをきっかけに親しくなり、直接建設を依頼された。

杉本さんは職人や左官約15人を現地で手配し、今年3月から工事に取りかかった。センターは一方6800人の学生が

通う同大学の総合図書館内に建設。延べ約50平方メートルの空間に、引き戸や土間、障子などをこしらえ、靴を脱いで入室する日本のしきたりを体験できる。一方、塗り壁や藁簀を用いた天井などスーダンの代表的な建築技法も取り入れている。

杉本さんには苦い経験がある。約3年前、同法人の取り組みの一環でスーダンの子どもたち20人が京都を訪れた。その際、杉本さんが接待して清水寺などを巡った。しかし、子どもたちが帰国した後、南スーダンが分離独立し、彼らは引き離された。